

補習校の子どもたちは、「松・竹・梅」と同じです！

正月の「正す」という言葉には、「改めなおす」「初め」などの意味があります。

きっと元日には、お子様も保護者のみなさまも「今年は…」「今年こそ…」といった、昨年度から改めなおされた思いを持たれたことと思います。

あけましておめでとうございます。令和3年「丑年」を迎えました。

月の異名では、1月は「睦月」です。「睦む」には、「仲良く親しみ合う」という意味があります。今年もお子様も、補習校でも家庭でも、仲良く親しみ合える環境の中で、健やかに成長してくれることを願っています。

新年になり、3学期からの準備のためにいつものように補習校事務所まで歩いて通勤していると、ふと、ある家の庭に梅のような花が咲いているのを見かけました。(花の名前はわかりません) まだ咲いている花は三・四輪しかなく、ほとんどは蕾でしたが、蕾はほんのりと淡い白と朱が混じった色のふくらみをみせていました。冬の寒気の中でも確かに、春一斉に咲く準備を整えているようです。気品あるその美しい姿をみせる日に備えて。

また、日本の正月といえば、「松・竹・梅」が思い浮かびます。

「松」は1年中色が変わらないことから「常磐木(ときわぎ)」と呼ばれ、縁起のよいもの、その常緑性が長寿のシンボルとされています。

「竹」は「若竹の折れつ曲がらず春を待つ」の俳句にもあるように、雪が降ると初めは身を揺るがして払いのけていますが、大雪をかぶると、今度はじっとして地に伏しています。

しかし、折れることはありません。やがて、陽光を受け雪が解け、風が吹きバサッと重荷が落ちると、元のように天に向け直立します。深雪の中でもその生き生きとしたしなやかさを失わず、お互いに支え合い、根を張り巡らし、時運の到来を信じ、忍耐強く春を待っています。やがて、次々と新芽を出すことから、生命力や成長力、繁栄の意味を持ちます。

この、「松」と「竹」はもともと日本に自生しており、平安時代末期にはすでに、松と竹を組み合わせた門松をお正月飾りとして用いられていました。

一方、「梅」は中国原産の樹木で奈良時代後期に日本へもたらされたと伝えられています。当時、「梅」は貴族にとっては憧れの大陸文化の象徴でもありました。やがて、「梅」は厳しい寒さの中でも一番に春の訪れを知らせる香ばしい花を咲かせることから、気高さや繁栄の象徴として定着していきました。

私は、補習授業校で学ぶ子どもたちも、少なからず「竹」と同じような重荷を背負っている気がしています。現地校との両立、二つの言語を並行して学ぶ、二つの文化や習慣の中で生きているなど。そして、健気ががんばっている補習校の子どもたちは、間違いなくこれからの社会で国際交流の中心となっていく人材です。「松」のように国際社会の中でリーダーとして長く牽引し、「梅」のように自分自身に気高く誇りをもってすばらしい香(成果)を醸し出しながら。

今年も、子どもたちと苦勞を分かち合い、子ども同士、教師と子ども、教師と保護者、保護者同士が連携・協働し、「共学教育」の精神で歩んでいきたいと思っています。

保護者のみなさま、ご支援・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



○ 3学期の予定

- 1/9 自宅学習(家庭学習)
- 1/16, 23, 30 2/6, 13, 20
オンライン授業実施
- 1/23 日本語科新入学説明会
- 1/30 小学部新入学説明会
(2つの説明会はオンラインで実施)
- 2/6 学級委員の会総会<予定>
小学部新入学面談(面談は実施しない)
日本語科新入学面談(オンライン実施予定)
- 2/13 高等部入学試験(延期)
- 3/6 卒業式予定<予定>
- 3/13 卒業式<予定> 修了式



「アトガキ」東 君平

- ヒトニ アツタラ ハナシテミヨウ
- ハナガ サイトラ ホメテアゲヨウ
- ホンガ アツタラ ヒライテミヨウ
- カミガ アツタラ ナニカヨカコウ
- カゼガ フィタラ フカレヨウ
- ジカンガ アツタラ カンガエヨウ
- エンガ アツタラ マタアオウ

ご不便をおかけいたします

イングランドの再ロックダウンに伴い、3学期の予定を大きく変更させていただきました。対面授業と比べて学習効果と子どもの意欲が下がりやすいオンラインでの授業が当面続き、保護者の皆さまと子どもたちにはご不便をかけますが、ご理解をどうぞよろしくお願いいたします。

<お願い> 令和3年度在籍調査票について

1月16日が提出締切日です。学級編制に関係しますので、メール添付で提出をお願いします。